

まな Viva!

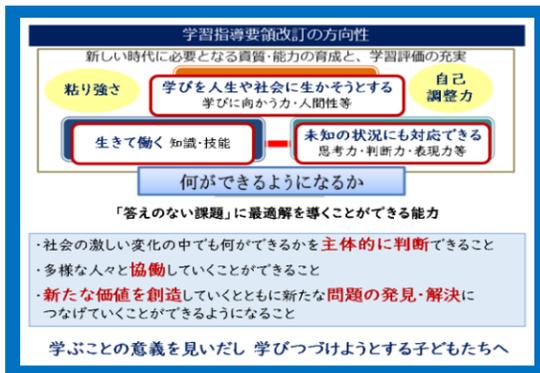
「京都丹波 まな Viva!」は、学校と先生を応援する南丹教育局の学びのニュースです。

「なんたん学びモデル推進校」の実践研究

「なんたん学びモデル推進校」では、推進校が自校の現状分析の上、「学力向上」に係る課題解決に向けた研究テーマを掲げ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて主体的に研究実践を進められました。

各推進校の実践研究から、管内の各園・校で大切にしたいポイントをまとめましたので紹介します。

- 〈1年次〉 亀岡市立南つつじヶ丘小学校
南丹市立園部中学校 南丹市立殿田中学校
- 〈2年次〉 亀岡市立大成中学校 南丹市立殿田小学校
京丹波町立瑞穂小学校 京丹波町立蒲生野中学校



「主体的・対話的で深い学びのある授業」の実現に向けて、推進校では、児童生徒に確かな学力を育むためにどうするか試行錯誤しながら、実践が進められました。

多様な価値観と多様な学び方が広がる中で、学校の意義や学ぶことの意義を改めて問われるようになり、そのためには、教師自身の学びをとめないこと、探究心をもって学び続ける姿勢が大切です。

先日(3月2日)に行われた推進校連携会議では、校内研究を推進するための組織的な取組や授業改善の工夫などについて、各推進校から実践報告がありました。

その報告から、今後の方向性について考えました。



1年次推進校の研究紹介

○実践・研究内容 ☆成果・変容

亀岡市立南つつじヶ丘小学校

【研究主題】
積極的に自分の意見を持ち、伝え合う児童の育成
～人間関係を築き、よりよい学級・学校づくりを目指す特別活動～

○「学級会」についての共通理解

- ・ 外部講師を招いて学習指導要領の確認
- ・ 学級会の進め方を確認
- ・ 話し合いの進め方、付けたい力、教師の助言や介入の仕方を協議



○話し合いに対する児童の意識調査

- ☆発言の仕方や意見の聞き方を意識できる児童が増え、意見を合わせたり折り合いをつけたりしながら、話し合いを進められるようになってきた。
- ☆話し合いの内容がずれたときなどに、提案理由に戻り、方向性を正すことができ、提案理由の重要性を感じるようになった。

ポイント

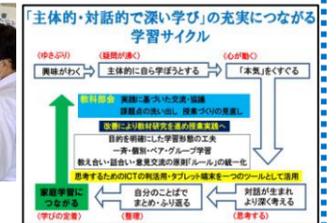
- ◇全教職員が共通理解のもと、指導をスタート
- ◇話し合いの具体的なイメージを児童と共有

南丹市立園部中学校

【研究主題】
心が動く授業の追求と生徒の思考力・表現力の育成 ~学習サイクルを活用して~

OR-PDCAを大切にした研究体制

- ・ 研究主題に対する生徒の様子をリサーチ(現状把握)
- ・ 公開授業研究会、南丹市小・中学校授業研究会など校種を超えて教員が学び合う機会の充実



○「主体的・対話的で深い学び」の充実につながる学習サイクル

- ・ 生徒の「本気」を引き出すような課題、「思考」する場面の設定
- ・ 根拠を示して自分の考えを表現できる生徒の育成

ポイント

- ◇「学習サイクル」を重点的かつ継続的に実践
- ◇生徒の「本気」を引き出す、心が動く授業の追求

☆公開授業での学びを授業者だけでなく、教科部会全体のものとして意識することができた。

☆思考する場面、発表を行う場面についての指導を意識的に取り組めた。

南丹市立殿田中学校

【研究主題】
主体的、対話的で深い学びを実現する授業作りの推進
～ねらいにせまるICTの利活用と言語活動の充実～

○カリキュラム・マネジメントの視点を意識した研究体制

- ・ 学習指導部、生徒指導部、各教科部等の連携
- ・ テスト結果は全教職員体制で共有し、手立ての実施
- ・ 公開授業週間(年2回)を設定し、全ての教員が授業公開



○全国学力・学習状況調査の結果分析・職員研修

- ・ 課題を明確にして、今後の取組を決定

☆記述問題の無解答率減少、自ら発言する生徒の増加、家庭学習習慣の改善など、生徒の変容が見られた。

☆研究主題を中心に置き教科の枠を超えた協議、ICTを効果的に活用した授業の実施など、教職員の変容が見られた。

ポイント

- ◇「伝えたい」という動機と必然性をうむ場面を積極的に設定
- ◇自ら意欲をもって学習に取り組む生徒の育成

2年次推進校の研究紹介

○実践・研究内容 ☆成果・変容

亀岡市立大成中学校

【研究主題】
主体的に学ぶ生徒の育成と確かな学力を育む学習指導の在り方

○基礎学力向上、授業改善に向けた取組

- ・「ICTを活用した授業」をテーマにした校内授業研究会(年3回)
- ・「ICTの活用状況について」を作成
- ・公開授業週間(年2回)
- ・生徒による授業評価アンケート
- ・毎日の終活前学習、毎週末の週末課題の設定



学年	教科	活用状況
1年	国語	ICT活用あり
1年	数学	ICT活用あり
1年	英語	ICT活用あり
1年	理科	ICT活用あり
1年	社会	ICT活用あり
1年	総合	ICT活用あり
1年	体育	ICT活用あり
1年	音楽	ICT活用あり
1年	美術	ICT活用あり
1年	保健体育	ICT活用あり
1年	道徳	ICT活用あり
1年	外国語	ICT活用あり
1年	キャリア教育	ICT活用あり
1年	その他	ICT活用あり

学年・教科におけるICT活用状況の一覧



ポイント

- ◇「ICTを活用した授業」への教職員のモチベーションアップや協働性をはぐむ体制づくり
- ◇小中連携を充実させ、教員の学び合う機会、児童生徒に学びのつながりを意識させる機会づくり

○全国学力・学習状況調査の結果分析・職員研修

- ・教師が実際に問題を解答し、理解につなげる

○小中連携の取組

- ・義務教育学校における中間報告会への参加
- ・府小研外国語研究会公開授業の記録を視聴
- ・中3から小6へ英語メッセージ
- ・授業導入部の工夫を撮影した動画を小学校へ提供

☆研究授業が、授業者の指導の在り方を改善する機会になる。

また参観者の意識改革にもつながり、校内全体が指導力向上に向けての機運が高まった。

☆事後研究会で教職員がICT(共有ノート)を活用することで、授業に生かすことにつながった。

☆授業評価について、教師の指導に対する質問に対して肯定的回答をする生徒がほとんどであった。

南丹市立殿田小学校

【研究主題】
自ら学び、表現する児童を育む授業づくり ～対話的な学びを通して～

○授業の中での対話的で深い学びを具現化

- ・児童から出るつぶやきや発言を対話的で深い学びと結び付けて視覚化
- ・児童の問いを大切に授業や導入の工夫
- ・研究リーフレットの作成



- ◇児童の「問い」や「つぶやき」を大切に、学ぶ意欲が持続する授業づくり
- ◇目指す授業の在り方を視覚化し、誰でも授業に生かすことできるスタイルを構築

ポイント

○授業研究を中心にした研究活動

- ・外部講師招請、指導主事訪問
- ・「一流から学ぶ」(DVD視聴)
- ・「なんたん学びモデル推進校」授業研究会の開催

○授業を支える取組

- ・算数科に関するアンケートを作成し、実態把握
- ・児童の興味・関心を引きつける数学的活動に関する掲示板

☆児童のつぶやきを大切にすることで、他者の思考に寄り添う、類推するなど、児童の発言が変化した。

☆アンケートで「算数が楽しい」と肯定的に回答する児童の割合が向上した。

☆必要な問いを生み出す発問や導入の工夫を具体的に示すことで、誰でも授業で生かすことできるスタイルを構築することができた。



研究リーフレット

京丹波町立蒲生野中学校

【研究主題】
学びを育む「京丹波町メソッド」の理念に基づいた授業改善の実践と、主体的な学びに向かう生徒の育成

○「学びを育む京丹波町メソッド」の理念、授業作りの方向性を共通確認

- ・学習者に見通しを持たせるためのめあての設定や提示
- ・めあてと一貫性を持たせた振り返りの在り方
- ・言語活動の充実



○教科や学年の枠組を超えた授業づくり

- ・授業交流月間でのアドバイスシートの活用
- ・指導主事要請訪問

○各種アンケートによる意識調査・分析

- ・主体的に学習に向かう意識、非認知能力の分野を確認

☆他学年・他教科の授業を参観することで、生徒理解が進むと同時に、教職員の授業づくりや教材研究が促進された。

☆指導主事訪問により、新しい視点や教材研究のヒントを得ることができた。

☆各種アンケートから、生徒たちの学習に対する意識がわかり、教育活動の方向性を確認することができた。

項目	R3 調査	R4 調査
1.授業の中で、「良かった」「必要な」と思える場面がある	90% (26/30)	94% (28/30)
2.自分から話しや疑問をもちたいと思う場面がある	80% (24/30)	90% (27/30)
3.目標やめあてが提示され、まわりの協力がある	98% (30/31)	99% (30/31)
4.授業や学習の楽しさ、学びの楽しさを感じる場面がある	83% (25/30)	84% (25/30)
5.タブレットや電子辞書が活用され、学習が楽しくなっている	80% (24/30)	99% (29/30)
6.自分から話しや疑問をもちたいと思う場面がある	83% (25/30)	93% (28/30)

学期末アンケート

ポイント

- ◇指導者のモチベーションがあがる計画的な研究推進の取組
- ◇各分析結果から、生徒の非認知能力、学びに向かう力を捉え、指導を改善

京丹波町立瑞穂小学校

【研究主題】
・自分の思いや考えを表現し、主体的・対話的に学び合う児童の育成
・小学校における教科担任制を通して、互いに学び合い、高め合う校内組織体制の確立

○児童の実態を全教職員でつかむ



○主体的・対話的に学び合う児童の育成を目指した授業づくり

- ・身に付けたい力を明確にした単元指導計画の構築
- ・効果的な言語活動の設定
- ・非認知能力「高める」「向き合う」「つながる」を意識

○教科担任制・交換授業・TT・少人数授業

- ・複数の教員の目で児童の実態を捉える

☆研究主題に向けた協議を重ね、授業改善につなげることで、課題であった「読むこと」の領域で一定の成果をあげることができた。

☆教員間で「学校体制で児童を見ていく」という意識を広げることができ、個に応じた指導の展開にもつながった。

ポイント

- ◇全教職員で児童の実態を把握し、目指す姿、身に付けさせたい力を確認
- ◇研究主題と児童の姿に基づく授業研究会を重ね、授業改善



京都丹波の教育推進事業「なんたん学びモデル推進校」の研究推進校の報告から、次年度に向けた取組のポイントを、子どもを主語にして4点にまとめました。

子どもの 学びがつながる・ひろがる

研究が積み上がる体制づくり

- 目指す児童生徒の姿や目指す授業の在り方についての方向性を明確にする。
- 全教職員で学び合いができるように、授業研究会(研修会)を工夫する。
- 日常的に授業を参観・参加し、互いに学び合える雰囲気をつくる。
- 交換授業、教科担任制を計画的に取り組み、効果を検証する。



公開授業研究会で校種間交流及び実践成果を波及

- 幼・こ・小・中が同じベクトルで研究を進めることにより、成果が向上。また、家庭や地域への発信も効果的。
- 互いの研究会に参加し、授業づくり・取組方法について協議を深める。

幼児教育の成果をつなぐ～非認知能力の育成へ～

- 「教える教育」から「環境を整える教育」意識をもつことが大事。
- 「子どもは有能な学び手である」という意識をもつことが大事。
- 幼児期の終わりまでに育ててほしい「10の姿」を共有する。
- 何よりも教師が楽しむ。

自立心 協同性 思考力の芽生え
豊かな感性と表現 健康な心と体
道徳性・規範意識の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
言葉による伝え合い 社会生活との関わり 自然との関わり・生命尊重



子どもが

次に進む方向がわかり、調整する

深い学びと振り返りの充実～どんな振り返りを書かせるのか～

- 本時の振り返りだけでなく、単元や内容のまとめとしての振り返りも有効。
- 「単元を通した振り返りシート」の工夫で、学びの深まりや自己の変容(成長)を自覚できるようになる。

児童生徒理解としての評価と指導改善につなげる評価

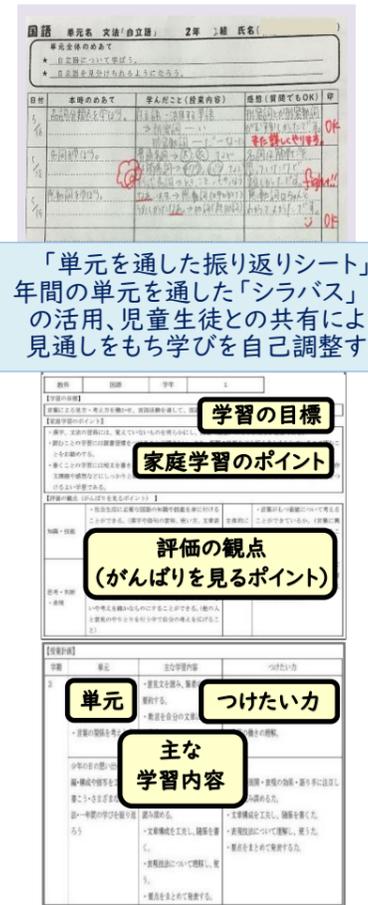
- 単元を見直し、「記録に残す評価」や「指導に生かす評価」の計画を立てることが、単元で育てたい資質・能力を明確にすることにつながる。
- 児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルをより重要視する。
- 自らの変容を客観的に捉え、学び方を自己調整できるようなしなけをする。
- 学力テストの分析や授業評価アンケートをもとにした授業改善。
- 「シラバス」が主体的な学びにつながるものであるかを検証、見直しを行う。

次への一歩「次に進む方向がわかり、調整する」



個(その子)をみる

- その子がどんな学びをしているのか、何をきっかけにどのように変容しているのかをつかみ、一人一人の可能性を最大限に引き出していけるようにする。



子どもが

この単元で身に付ける資質・能力がみえる

身に付けたい力(捉えさせたい学びの本質)を明確にした単元指導計画

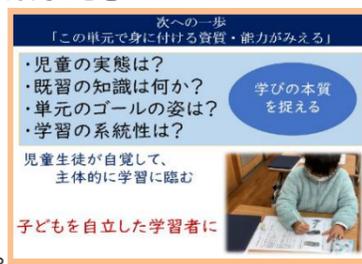
- 児童の実態、学習の系統性、指導事項、年間指導計画などから、単元のゴールの姿をイメージし、そこに向かうための単元構想を練る。
- どのような目標に向かって、どのような学習を行うのか、児童生徒が自覚して、主体的に学習に臨む授業(学習活動・場)を設定する。
- 「教える」授業から「自ら学び取らせる」授業への改善
- すべての子どもを自立した学習者にするため、学び方を教える。

単元の学びを生かす(生きて働く力に)

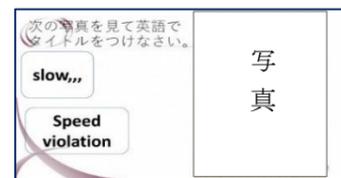
- 身に付けた力を用いて思考を深めるなど、学んだことを使えるような場面(活用場面)を設定する。

自ら意欲をもって取り組む家庭学習

- 動機の高まりと必然性のある家庭学習の課題提示を工夫する。
- 学び方への着目、学びへの関心を高める環境で、学びを自己調整しようとする力を育む。



学びの主体者は子ども～子どもは自ら学ぶ力をもっている～



学びに主体的になる課題設定の工夫



子どもが

学ぶことの意義・楽しさを感じる

心が動く授業～「本気」を引き出す～

- 児童が問いを見付け、自ら動き出す授業展開や発問を考える。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実。
- 教科等横断的な学習、課題解決型(PBL)の学習を展開する。
- 教職員全員で子どもの多様な考えを見取る。(教科担任制、交換授業等)

質の高い言語活動を設定

- 対話に価値を見出す、納得解を得る対話になっているか振り返る。
- 教師のファシリテーターとしての学習展開を創造する。
- 自分の考えや気付きを発信しやすい授業づくりを行う。

ICT・タブレット端末の利活用

- 単元・授業のねらいに合った効果的な利活用。
- 自分の目的に合う表現の仕方を選択できる力を養う。

